

# 当日配布資料 1

## 田中正造没後100年記念シンポジウム 「田中正造とアジア」開催の経緯

宇都宮大学国際学部附属多文化公共圏センター長

高際澄雄

2013年(平成25年)12月8日

於栃木市藤岡遊水池会館



正造研究の第一人者 布川了氏 2007.3.4撮影

布川先生

足尾鉬毒事件と田中正造のご研究  
長い間ありがとうございました。

ご冥福をお祈りいたします。

## 附属多文化公共圏センターの役割

- 公共圏「多様な意見を集約して合意を形成する場」(社会学者ハーバマスの概念)
- 18世紀ヨーロッパで成立
- 現代にふさわしくさまざまな文化を持つ市民の意見交換の場
- グローバルな時代に合った使命を果たす
- HANDSプロジェクト 外国人児童生徒の就学支援
- 福島妊産婦乳幼児支援プロジェクト
- 2008年4月に設立

## 企画理由

- 個人的理由
  - (1) 渡良瀬遊水地の近くに生まれ育つ
  - (2) 家族が田中正造の記憶に関わる
  - (3) 地域が田中正造の活動と関連する
  - (4) 渡良瀬遊水地の自然保護運動に関る
- 学問上の理由
  - (1) 環境科学(Environment Science)の進展
  - (2) 田中正造研究の進展

## 個人的理由

- (1) 渡良瀬遊水地の近くで生まれ育つ
  - 家から渡良瀬遊水地が見えた
  - 渡良瀬遊水地は遊び場「ヤ」は特別の場所
- (2) 家族の田中正造の記憶
  - 祖母 高際スイ 部屋の帯刀に明治30年生
    - 10歳の頃 田中正造を目撃
    - 沼で水泳 洪水を体験 ムロの楽しさ
  - 母 高際良子 下生井小学校(昭和14-17) 洪水を経験(昭和16)
    - 近所の関口コトさんが谷中村強制破壊の経験者であることを発見
    - 針谷不二男さんに連絡
  - 父 高際賢重 赤麻のことを語りたがらない
    - 家の没落と村の衰退「赤麻沼の買収について」を残す
- (3) 村の人々の記憶「田中正造の言うとおりにしていれば.....」
- (4) 住民運動への参加 昭和64年 江川一般廃棄物処分場拡張阻止同盟
  - 水土と緑を考える会 ゴミ問題を考える栃木県連絡会 藤岡町自然を守る会



関口コトさん（旧姓水野 1998(明31).5.5 -1990(平2).3.17)  
谷中残留民家屋の強制破壊体験者（9才の時）

## 文明概念

- 「真の文明は、山を荒さず、川を荒さず、村を破らず、人を殺さざるべし」
- 田中正造の理想主義に過ぎないのではないか？との疑念
- 文明は自然環境を破壊するもの、との抜きがたい考え
- 文明=civilizationの訳（福沢諭吉）
- civilization 比較的新しい語 イギリス18世紀中期に成立
- citizen の特質 citizen=cityの住民 都会民

## 環境科学の進展 1

- 土壌科学
- 文明が土壌浸食を進めた例  
ギリシア、ローマ
- 文明が土壌浸食を食い止めた例  
17世紀オランダの土壌改良  
ダーウィンのミズの研究  
ブラジル・ラブレタの土壌は先住民が作る

デイヴィッド・モントゴメリー『土の文明史』（築地書館 2010年）

## 環境科学の進展 2

- 文明の比較により自然環境を破壊する文明と自然環境を豊かにする文明を明示
- グリーンランド・バイキング  
10世紀に定住 15世紀に消滅
- グリーンランド・エスキモー  
10世紀に定住 現在まで続く
- 差 自然環境の利用に違い

## バイキングとエスキモー

- 自然環境の利用の差

バイキング 木材 土 羊 牛 馬 鶏

エスキモー 獣皮 雪 鯨 海豹 魚

バイキングはエスキモー文化を侮蔑

### 徳川幕府の森林保護政策

- 江戸の発展による木材需要の増大
- 大火による建築資材の必要
- 森林の乱伐
- 洪水の頻繁化
- 厳しい保護政策 日本を森の国

ジャレッド・ダイヤモンド『文明崩壊』  
(草思社 2005年)

### 田中正造研究の進展

- 国内  
赤上剛氏 小松裕氏 布川了氏  
飯田進氏 ほか
- 国外  
朴孟洙氏  
東学農民革命研究から田中正造研究に  
アプローチ

### 田中正造思想の特質

- 高く、広く、深く、豊かな田中正造の思想  
高さ 高潔 高貴 高邁  
広さ 地域的広がり  
ほぼ世界全体を視野に  
多くの領域にまたがる  
政治 経済 社会 自然  
深さ 運動により思想を深化させていく  
豊かさ ドクマ性を廃し、独創的で創造的